

◇ 学校通信 ◇

令和 7 年 6 月号

桶川市立加納中学校

加納中だより

<http://www.okegawakanou-jhed.jp/netc/htdocs/>

《校訓》自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 355名

言葉の力や重みについて

校長 矢澤 等

私たちは言葉と共に生きています。会話などの話し言葉、手紙やメールなどの書き言葉、書籍の長い文章なども言葉で記されており、身の回りは言葉であふれています。言葉には大きな力があり、言葉によって励まされ勇気づけられたり、言葉によって悩み傷ついたりすることがあります。年度当初は、新たな出会いと共に人間関係を築いていく時期なので、生徒たちの会話にも、遠慮や気遣いが感じられました。6月以降は、生活に慣れたためか、親しみを込めた話し方や本音を語る言い回しも多くみられます。それによって、絆が深まることも期待できますが、時としていさかいの原因となることもあります。

様々な分野で偉大な功績を遺した人の発する言葉には重みを感じます。プロ野球選手の大谷翔平さんやイチローさんは、「夢や目標に挑み続ける大切さ」や「道具を大事にする心」、「継続すること、ルーティンによって成し遂げられる成果」などについて語ってこられました。実は、こうした話は私たち教員も、機会をとらえて生徒たちに伝えていますが、お二人の説得力にはかないません。言葉というものは、その人自身を映し出すものであるからなのでしょう。

話題は少し逸れますが、私たちは日頃刃物を持ち歩きません。その危険性をしっかり理解しているからです。しかし、言葉にも刃物と同じか、時にはそれ以上の切れ味があることを忘れてしまいます。なぜなら、言葉の切れ味は、使う人ではなく、受け止める人によるところが大きいからです。同じ言葉を伝えても、受け止める相手が変われば違う結果になることはよくあることです。発した言葉は、消しゴムで消すことはできません。

「環境が人をつくる（育てる）」とよく言われます。身の回りを整頓することや、部屋に花を飾るのと同じように、『言語環境を豊かにする』ことが、誠実さや思いやりを育むことにつながると考えます。本校にかかわる全ての人に対して、美しい言葉で接する生徒、また、教職員でありたいと思っています。日頃より言葉の力や重みについて意識し、よりよい人間関係を築いていきたいと思ひます。

